

BEA VOICE

LIVE

Aimer Hall Tour 19/20 "rouge de bleu"

12/6  ~ bleu de rouge ~

12/7  ~ rouge de bleu ~

福岡サンパレスホテル&ホール

Aimer

あたらしい夜の、その暗闇の中で、
より濃く、鮮烈に色づく
Aimerの今。

09

No.484 September 2019

The music magazine
that charms you.

▶ INTERVIEW

Chage

原点への回帰と未来への予感。
先人と昭和へのリスペクトを込めて令和に贈る新作。

クレイジーケンバンド

港気質から育まれた感覚が
楽曲になっている。

▶ LIVE REPORT

LOVE PSYCHEDELICO

音楽の原初的なゆらぎに満ちた "TWO OF US" — ふたりきりで奏でた最上の音。



P I C K U P !



三浦大知
DAICHI MIURA LIVE TOUR 2019-2020
10月31日(木) マリンメッセ福岡



LUCKY TAPES
"actor" release tour
11月8日(金) FUKUOKA BEAT STATION

琴音
12月8日(日) 福岡 ROOMS

reGretGirl
1月25日(土) FUKUOKA BEAT STATION



aiko Live Tour Love Like Rock vol.9
11月29日(金)・30日(土)、2月1日(土)・2日(日)
Zepp Fukuoka

THE MODS
10月27日(日) 熊本 B.9 V1
11月17日(日) 福岡 DRUM LOGOS



芹澤優
10月20日(日) 福岡 DRUM Be-1(2部公演)

山崎ハコ 山崎ハコ (Vo, Ag) 安田将美 (Ag)
45th Anniversary Live with 安田将美
11月16日(土) 熊本 B.9 V1
11月17日(日) 鹿児島市民文化ホール市民ホール
11月23日(土) 長崎 NBCビデオホール
11月24日(日) 福岡 電気ビルみらいホール

折坂悠太
"折坂悠太のツギと言はるかー2019"
GUEST: butaji
10月25日(金) 熊本 早川倉庫
10月26日(土) 福岡 住吉神社能楽殿
10月27日(日) 沖縄 桜坂劇場ホールA



つばきファクトリー
10月12日(土) 熊本 B.9 V1(2部公演)
10月13日(日) 福岡 DRUM Be-1(2部公演)

Mr.FanTastic
今年も飲みまじり 乾杯ツアー GUESTあり
11月10日(日) 福岡 DRUM SON



田島貴男 (ORIGINAL LOVE)
ひとりのツアールー2019
11月15日(金) 長崎 DRUM Be-7
11月16日(土) 福岡 DRUM LOGOS
11月17日(日) 熊本 B.9 V1



People In The Box
One Man Tour 2019 Tabula Rasa!
9月28日(土) 鹿児島 SRホール
9月29日(日) 福岡 the voodoo lounge

the band apart
10月25日(金) FUKUOKA BEAT STATION

DIR EN GREY
10月16日(水) Zepp Fukuoka
10月19日(土)、20日(日)
沖縄 ミューズックタウン音市場

H ZETTRIO
12月6日(金)、7日(土) 福岡 都久志会館



SPECIAL OTHERS
スベアザの新たな一手は"ニューシングル(会場限定)とワースト盤第2弾(会場限定)を販売する"なんと直球な全国ツアー。新作はもちろん、メンバー選曲によるマニアックなワースト盤にも期待。
>12/7(土) FUKUOKA BEAT STATION



松山千春
今なお精力的な活動を続ける松山千春。10月よりコンサートツアーを開催。1月発売のライブ映像作品で予習・復習をお忘れなく。
>12/10(火) アルカス SASEBO [長崎]
>12/12(木) 福岡サンパレスホテル&ホール

Perfume
9月にメジャー・デビュー15周年イヤーに突入するPerfumeが、初のベスト・アルバム『Perfume The Best "P Cubed"』を9/18にリリース。『ナナナナイロ』『Challenger』の新曲2曲を収録した全52曲の特大大ボリューム!新曲を除く全楽曲は中田ヤスタカによるリマスタリング音源に。アルバムを引っさげ、初の4大ドームツアーが開催決定。Perfumeのこれまでと、この先の未来と一緒に体感しよう!
>2/8(土) 福岡 ヤフオクドーム

September 2019 | 9 >> | TOPICS |



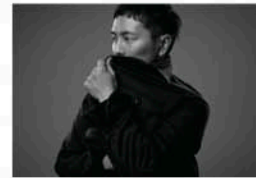
B'z LIVE-GYM 2019 ライヴ・ビューイング
ツアーファイナルとなる9/10(火) マリンメッセ 福岡公演の様を、ライブ・ビューイングで全国の映画館へ生配信!さらに9/14(土)、15(日)、16(月・祝)には一部映画館でディレイ上映も。
>9/10(火) 全国の映画館にて上映



ASPARAGUS
心を震わす良質なメロディ、そのメロディを活かす洗練されたアレンジセンス、癖になる甘いヴォーカル、卓越した演奏力の4大要素を見事に兼ね備えた希有なバンド。11月よりワンマンツアーがスタート。
>11/17(日) Queblick



ミュージカル『刀剣乱舞』歌合 乱舞狂乱 2019
名刀を擬人化、戦士となった"刀剣男士"を収集・強化・育成していく大人気シミュレーションゲーム「刀剣乱舞-ONLINE-」がミュージカルに!歌あり、踊りあり、芝居ありの新たなライブエンタメ!
>12/12(木)、13(金) 福岡国際センター [13日は2回公演]



Jazztronik
Jazztronikの屋台骨となるトリオ編成でのライブが、遂に福岡でも実現!野崎良太 (Pf)、天倉正敬 (Dr)、藤谷一郎 (Ba)の3人から繰り出される強靱なリズムセッションは必見!
>10/4(金) ROOMS



思い出野郎Aチーム
今年フジロックにも出演するなど、飛ぶ鳥を落とす勢いの8人組のソウルバンド。9/18リリースの3rdアルバム『Share the Light』を聴いて、是非ともフロアで会いましょう!
>11/23(土・祝) INSA



Full Of Harmony
メジャー・デビュー20周年を記念し、オリジナル・アルバム『The Voice』、トリビュート・アルバム『Another Voice』を11/6に同時リリース&アニバーサリーツアーが決定。
>12/14(土) FUKUOKA BEAT STATION



Attractions
7月発売の1stシングル『Satisfaction』は、日本語詞を取り入れたダンサブルなロックチューン。レコ発ツアー最終日の福岡公演は韓国のインディロックバンド、SE SO NEONを迎えて。
>10/22(火・祝) DRUM LOGOS



フィロソフィーのダンス
ファンクやソウルを中心とした楽曲でアイドルファンのみならず、多くのリスナーを獲得しているフィロの自。自身最大規模の全国ツアーを敢行。
>11/30(土) DRUM Be-1
>12/1(日) 熊本 B.9 V2



青山テルマ
最近バラエティ番組にも出演し、ぶっつけトーキングでマルチな才能を発揮している青山テルマ。12月に全国7都市でのワンマンツアーを開催。パーティーアンセム満載のスペシャルライブをお見逃しなく!
>12/21(土) DRUM LOGOS



AA=
THE MAD CAPSULE MARKETSの上田剛士によるソロプロジェクト。8/7に3年ぶりのニュー・アルバム『#6』を発売。リリースツアーは白川貴善、児島実、金子ノブアキが参加。
>10/26(土) LIVE HOUSE CB



ミオヤマザキ
全国47都道府県で無料ライブを敢行中のミオヤマザキより、東名阪福でのZeppツアーがアナウンスされた。来年1月には横浜アリーナ公演が控え、加速するミオヤマザキから目が離せない!
>12/1(日) Zepp Fukuoka



山崎育三郎
"ミラーボール"をテーマにしたカバー・アルバム『MIRROR BALL'19』を7月に発売。歌謡曲、J-POP、洋楽など幅広い年代の楽曲をダンスアレンジ!変幻自在のヴォーカルスタイルに注目!
>1/18(土) 久留米シティプラザ ザ・グランドホール



大石昌良 / 植田真梨恵 / 磯貝サイモン / ISEKI
ギターの祭典"Yamaha Acoustic Mind 2019"が全国5都市で開催される。各地ゆかりのあるアーティストを迎え、地域に密着したスタイルで展開。会場ロビーではギターに触れる体験会も。
>10/26(土) スカラエスパシオ



ZAZEN BOYS
向井秀徳率いるZAZEN BOYS。ワンマンツアー"TOUR MATSURI SESSION"を全国4都市で開催。手に汗握る緊張感と変則的なリズム&ビート、あなたはどう感じるか?!
>12/6(金) DRUM LOGOS



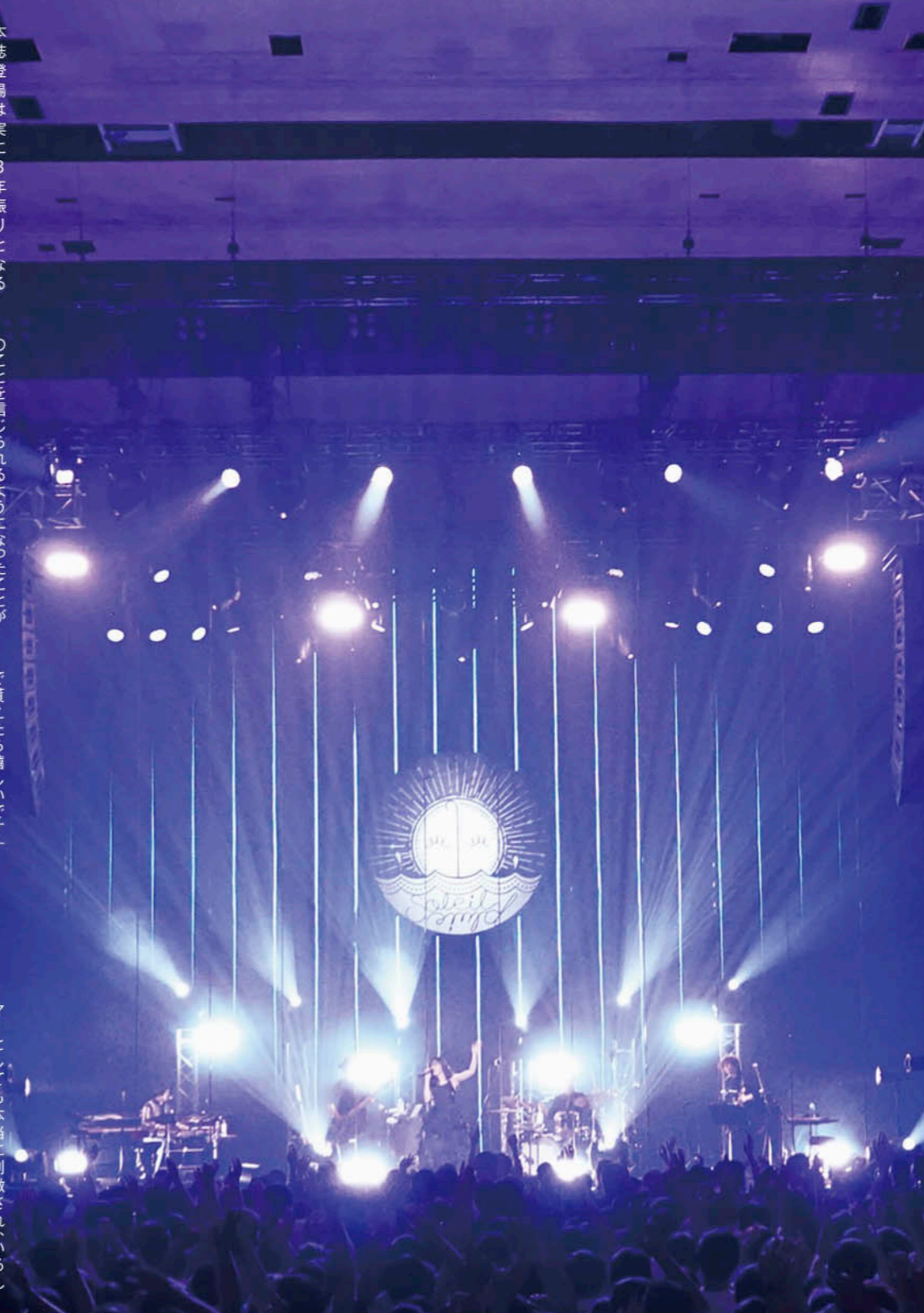
NEIGHBORS COMPLAIN
大阪のストリートで腕を鳴らし、'15年にデビュー。ライブとリリースをコンスタントに重ね、着実に勢力を拡大してきたNEIGHBORS COMPLAINが、'20年の全国ツアーを発表。
>1/19(日) DRUM Be-1



Aimer

あたらしい夜の、その暗闇の中で、
より濃く、鮮烈に色づく
Aimerの今。

取材/文：なかしまさおり



本誌登場は実に3年振りとなるAimer。前回の取材以降、とくに自身初となる日本武道館公演の成功やアジア各国でのツアー、フルオーケストラとの共演など、これまで以上にさまざまなシーンでのライブに果敢に挑戦してきた。とりわけ「daydream」以後にリリースされた刺激的なシングル群。また、それらを集約するような形で創り上げた最新アルバム「Sun Dance」[Penny Rain]に至るまでの過程には、そうしたライブ活動で得た多くの経験が影響しているようにも思われる。

「Sun Dance」の後は、光の中というタイミングと、ライブという場所を重視し始めたことが重なって、聴いて下さる皆さんのことをいつも考えながら制作に臨むようになりました。わたしからみんなへの方向だけじゃなく、わたしからみんな、みんなからわたしへの双方方向になるような音楽を意識してみたり、作詞でも着地点が前向きになるよう意識したり。その一つの集大成が「太陽」をテーマにしたアルバム「Sun Dance」です。ただ、その一方で、夜明け前までの自分を好きでいてくれていた方たちも大切にしたいという思いがあった。創ったのが、「雨」をテーマにしたアルバム「Penny Rain」。これまでも、相反する二つのものを大切にしながら音楽を創る、ということをやってきました。『daydream』から始まった物語がこうやって、太陽と雨に辿り着けたことは、とても嬉しく満足しています。また、最近では以前よりも、自分の喉を心配することなく、楽しみながら歌えるようにもなってきました。それは、もちろんたくさんのライブ経験を重ねたからでもあるし、何より、聴いてくれるみんな

のことを信じられるようになったことが大きいです。ライブで歌を追求したい、ライブで真価を発揮できるアーティストになりたい、そういう思いが以前に増して大きくなっています。そんなAimerが8月14日にリリースしたのが最新シングル「Torches」だ。表題曲「Torches」はNHKアニメ「ウィンランド・サガ」のエンディングテーマでもあるが、太陽と雨を経て、再び、夜の景色が歌われている。「太陽と雨」のアルバムを創った時、いつでも過去の自分や原点を大切にしながら歩いてきたつもりでした。でも、光あふれるところで明るい歌を歌うことで、ファンの方に、昔を忘れてしまった、と言われることもあり、ずっとそのことが気になっていたんです。それで、今回「ウィンランド・サガ」のお話を聞いた時に、夜に合う曲を創れそうだという予感が出て、さらに「Sun Dance」で今の自分出来る光の表現を尽くしたい手応えもあったので、そんなファンの方の声に意思表示をするためにも、この機会に再び、夜を表現してみようと思いました。ただ、昔の夜に戻るのではなく、今の私に出来る、あたらしい夜を表現しよう。と。実は「ウィンランド・サガ」の舞台はアイスランドをはじめとした北ヨーロッパなんです。それで、アイスランドを数回訪れたことのある自分なりに、現地の広大な景色が浮かぶような曲にしたいなと思って、サウンド面では工夫しました。間奏に思い切ったコーラスを入れたのもその一つで。歌うのが、一番難しく、今までになかった新しさを出せたかなと思っています。ギターと私の声だけで始まる一方、サビでは大きく開ける曲になっているので、そのダイナミクスも楽しんで

で貰えたら嬉しいです。そんな「Torches」に感じるのは、梶浦由記プロデュースによる「Beg You」にも通じる土着的な世界観だ。もちろん、曲調や歌い方は全く異なるが、終始、炎が見え隠れするような情念的な、あちら側、感ある種、ライブなどではトランス状態へと導いてくれるような瞬間がある曲で、心地良いリズムの上で絶妙に変化していく歌い方なども含めて、新たなワールド・ミュージックとしても世界へと発信できるパワーを秘めているのではないだろうか。「ありがどうございませう。おっしゃる通り、ライブではまさにトランス状態です。「花の唄」もそうなんです。梶浦さんの書いてくださった2曲には、どちらもそういう魔力があつて、毎回、歌うたびに全然違う歌い方や声色を自然と試してみたくります。初めてバンド編成で歌ったのは実はアジアツアーだったのですが、海外のお客さんからも、それはそれは物凄い反響をいただいた、とても嬉しかったです。最新シングルには上海公演の音源も入っていますので是非、聴いてほしいです。それこそ「Torches」で、今までになくトリアルバルな要素のある曲を創れたのは、「ウィンランド・サガ」の世界観に導かれた部分も大きいのですが、海外でワンマン・ライブをする回数が増え、日本以外の場所でも確実に自分の音楽を聴いて下さる方がいるんだと確信を得た。今の自分だからこそ、だと思えます。この数年、フルオーケストラでのライブもそうです。ワンマン以外にも、身一つで様々なシチュエーションで歌う機会を頂いているので、そのひとつひとつに音楽家としてもパフォー



Release

New Single
Torches
8.14 ON SALE

SME Records

1. Torches
2. Blind to you
3. Daisy
4. Black Bird (Aimer "soleil et pluie" Asia Tour in Shanghai)
5. I beg you (Aimer "soleil et pluie" Asia Tour in Shanghai)



LIVE

Aimer Hall Tour 19/20 "rouge de bleu"

12/6 ㊦ ~ rouge de bleu ~

12/7 ㊦ ~ rouge de bleu ~

福岡サンパレスホテル&ホール

※詳しくは「BEA WEBサイト」をご覧ください。

[PROFILE] / Aimer (エメ)

シンガー・ソングライター。15歳の頃、声が一切出なくなるというアクシデントに見舞われるも、それがきっかけとなり現在の歌声を獲得。11年にシングル「六等星の夜 / 悲しみはオーロラに」/ TWINKLE TWINKLE LITTLE STAR』でメジャー・デビューして以降、オリジナル曲はもちろん、アニメやドラマ、映画、ゲーム、CM界からのオファーも絶えず、多くの人気作品でテーマ曲を担当。一度聴いたら忘れられない甘くハスキーな歌声で実に多くのリスナー、およびクリエイターたちを魅了し続けている。17年には自身初のベスト・アルバム『BEST SELECTION "blanc"』『BEST SELECTION "noir"』を2枚同時リリース。自身初の日本武道館公演を行ったほか、昨年はamazarashiとのアジアツアー、スロヴァキア国立放送交響楽団を迎えたオーケストラ編成でのライブも実施。今年6月にはアジア5都市でのワンマンツアーも行うなどワールド・ワイドな活動を展開している。ちなみに最新シングル収録の「Blind to you」は「以前の夜に通じるような悲しさも灯しながら、でもサウンド的には開けていく曲を目指した。例えば、悲しいけれど、深夜にドライブをしながらでも聴けるような。今の自分だから表現できたあたらしい夜の曲」。『Daisy』は「あたらしい夜の始まりと言えど悲しい曲だけを歌うわけじゃないんだよ、という気持ちも込めました。『daydream』や『Sun Dance』などの光の中で表現した曲たちを好きでいてくれる方にも届くかと思っています」とのこと。上海公演のライブ音源2曲も含め、じっくりと味わってみてほしい。 <https://www.aimer-web.jp/>



クレイジーケンバンド

港気質から育まれた感覚が楽曲になっている。

取材/文: 荒木英喜

デビューから21年目に突入したクレイジーケンバンド。8月に放った、約1年ぶりとなるオリジナル・アルバム「PACIFIC」は、彼らが育った横浜をはじめとする「港街」をテーマに作られた。「そういう気分だった」というか。港で仕事をしていたメンバーも多かったですし、そういう普段あまりにも身近にあり過ぎて意識していなかったところに、また原点回帰したという。何気ないコンテナやガントリークレーン、その風景の向こうは太平洋…。よし！英語でパシフィックと言っちゃおうと(笑)。港気質というんですかね？大らかでいい加減で、そうじゃないと成り立たないというか。そういう気風から育まれた感覚が楽曲になっていると思います。自由な感じを音楽に変換するのがCKBだと改めて思いましたし、ここから21年目のスタートということで、リセットする感覚が気分的には1スタート(笑)。

も、ミディアムとかメロウなナンバーに興奮するというか、汗をかいたというか。矢沢永吉さんの言葉を借りるなら「ハートで汗をかいた」。それがミディアムなんです。僕はずっとスウィートソウルとかソフトロックが好きで、それこそバート・バカラックのメロロから入ってきて、そこに五木ひろしの演歌が入ってきて。共通点はそこですけど、ジャンルで説明すると分り良くなり、いやいやですね。つまり雑食なんです。まあそれも、港のせいにしてしまえばいいやと(笑)。いろんな人種や文化がクロスオーバーしているということ。

8月末からは全国ツアーがスタート。九州では福岡と鹿児島が予定されている。彼の真骨頂と言えるライブだが、今回は「興奮する」曲が多いだけに、リ期待が高まる。

「ライブハウスはお客さんと距離が近い分興奮しますし、ホールは照明など凝った演出ができるので僕らの世界観を作り込むことができると嬉しいです。どちらもセットリストは変わりませんが、会場の雰囲気やパイオリズムの違いで印象は変わるだろうと思います。毎回苦しみというか、新鮮なのがリクエストコーナーですね。あと一曲でリクエストコーナーだと思えば痛くありません(笑)。一番やらなせそう曲をリクエストされるんですけど、そんな曲にも対応できるように頑張ってます。最初に来た人が置いてけぼりにならないように、新旧の曲を織り交ぜつつ盛り上げたいですね」



写真プレゼント
応募方法はP.11を参照



New Album
PACIFIC
ユニバーサルミュージック
8.7 ON SALE

クレイジーケンバンド
'97年春頃に横浜を中心にバンド結成。翌年アルバム「PUNCH! PUNCH! PUNCH!」でデビュー。ニューソウル、ファンク、ジャズ、ロック、ポサノバ、演歌などさまざまなジャンルの音楽を飲み込み、CKBの音楽としてアウトプットする。そのためついた愛称が、東洋一のサウンド・マシーン。唯一無二の存在でありながら、親しみやすさも持つ稀有なバンド。独自の世界観で魅了するライブは多くの人を虜にする。
<https://www.crazykenband.com/>

LIVE!

CRAZY KEN BAND
TOUR PACIFIC 2019
Presented by NISHIHARA SHOKAI
10.14(月) 福岡国際会議場メインホール
11.22(金) 鹿児島CAPARVOホール
詳しくは「BEA WEBサイト」をご覧ください。



New Album
feedback
ユニバーサルミュージック
8.7 ON SALE



Chage

Live!

Chage
Live Tour 2019
feedback
9.13(金)
Zepp Fukuoka
詳しくは「BEA WEBサイト」をご覧ください。

Chage(チャゲ)

58年生まれ、福岡県出身。79年に「チャゲ&飛鳥」としてシングル「ひとり吹き」でデビュー。以降、数多くのヒット曲を生みつつ、多様なミュージシャンやシンガーとのコラボ、'89年から「MULTI MAX」としてのユニット活動も精力的に行ってきた。'98年にソロ活動を開始し、昨年5月にはソロ活動20周年の記念ベストアルバム「音道」をリリースし、今作「feedback」へ至る。今作のサウンドプロデュースはChage作品ではお馴染みの西川進と方石理江。古今のUKビートに精通する西川はライヴデリックロックの華々しさとエネルギーを放出させ、方石は新曲「Mimosa」にデキシランドジャズを吹き取り入れ、Chageのルーツをより奥深くまで見せている。
<https://chage.jp/>

原点への回帰と未来への予感。
先人と昭和へのリスペクトを込めて令和に贈る新作。

取材/文: 山崎航美

「去年、ソロ20周年と通算の記念にベスト盤を出し盛大に祝っていたので、今年は音楽でお祝い返しをしたいと思います。それが原点の原点みたいなものを聴いていただこうと、僕の大好きなビートルズ、そのビートルズに影響を受けて、UKのマジックビートをはじめ一大ブームメントが世界中で起きているTVをランドセル背負ったまま観てるという風景が、僕の中に未だにあるんです。それを音楽にするというところになった。元号が変わったことも大きいですが、昭和という時代が後ろに引かれる今、昭和の音楽の素晴らしさを、自分のフィルターを通して再現したいと思いました」

再現実たいと思いましたが、新曲とモデル・ラレンスのカワウラ一曲で全8曲6トラックの構成。吉田拓郎(作詞・作曲)によるモップスの「たどりついたらいつも雨ふり」やスパイダースの「あの時君は若かった」等のカヴァーには原曲リスベクトの念だけでなく現代に通ずるサウンドだけでなく、歌詞では盟友・松井五郎が1曲目「Ketchi Kiss Yeah Yeah」を流石の言葉遊びで睡かせ、逆に異色のタッグ曲は異彩のシンガーソングライター・前野健太に託した「Love Brandy」。

「前野健太の織り成す言葉は文学的。この歌詞ではわりとシリアスな言葉を綴って、最後に「歌でも歌おうか」と締めると、僕は音楽には救いがないといけない、どんな歌詞でも、一度突き落としたりしてどこかに梯子をかけたくなるような気持ちで、それを伝えたいと思ってたんですけど、最後の最後、一節で救われる。凄いなと思います。面白い化学反応が出た。彼とはまた面白い仕事ができそうな気がしますね」

原点へ立ち返るなかで未来への予感も特別な今作は、彼にとってやはり特別なもの。ノスタルジーは過去に止まる行為ではなく新たな活力を生む糧でもあることを思う。

「マスターングが終わってからもずっと聴いてるんです。そんなこと初めてじゃないかな。他のと何が違うのか自分でもわからないんですけど、心地いいんですよ。浮かんでくる風景は北九州や福岡の街で、小倉にいた少年の自分と福岡でバイクを乗り回している自分がそこにいるような感覚になるし、モップスを聴いた時の衝動とかスパイダースを聴いた時のワクワク感が、沸き起こってくる。だからこれはやっぱり福岡のアルバムなんです」

自身の血肉の滾りを感じながらツアーの準備も着々と進む。「本当に楽しみにしてて、終わる後、笑顔で「明日から頑張ろう!」と感涙もらえちゃうセットリストになってるし、ライブハウスだけと椅子は用意してますから(笑)。もちろん、恒例の約束事、「立てー!」「ヤー!」もやりますよ!」と笑う顔はそれこそ少年のままだった。

LOVE PSYCHEDELICO

Premium Acoustic Live "TWO OF US" Tour 2019

2019年8月3日(土) 福岡国際会議場メインホール

音楽の原初的なゆらぎに満ちた "TWO OF US"
——ふたりきりで奏でた最上の音。

文:山崎聡美 写真:ハラエリ

天上のミュージックも聴き惚れたに違いない。今宵、この会場に満ち溢れた最上の音に。なんと豊かな空間、豊饒な時間だったことか。幕開けから、KUMIとMOCKそれぞれのアコースティックギターがリズムカルに絡み合う。《1.2.3.》と深い深呼吸をするような心地よいタッチで、互いの緊張や観客の硬さをほたいていく。開演前、「Saw Her Standing There」には、まるでフレンチシチュなBGMが流れて、the good old daysの雰囲気に包まれていた場内が、かの時代から今に通じる音楽の息吹を感じることでノスタルジイに止まらない昂揚をみられる。ライブ前、多様な演奏器と、あとは中盤から登場したリズムボックスのみの至極シンプルなおセット。けれどその表現の繊細さと進行は、フルバンドに勝るとも劣らぬもの。アコギにマンドリン、ブラスやラップスティールギターなどを二人ともに曲毎に持ち替えては、ギミックよりも楽器そのものの響きや歌



とのハーモニーに重なるおいた玄妙なアレンジと合わせて、その音の彩りを味わい楽しみながら一曲一曲丁寧に紡いでいく。音が空気を揺動させて聴衆に伝わる一編曲のうちにヴィヴィッドな曲の原風が立ち上がり、二人の演奏が進むほどにリズムやビートもちらり、鳴っていない鍵盤やパーカッションの音までも聴こえてくるほどだ。このツアーのために設計が関わって製作したという超高音質のスピーカーシステムを帯同する。こだわりにも傾くばかり。MOCK曰く、「張り切った話め込みすぎて、コレは可能音域全てを鳴らすことのできるアンプが存在しない(音質)感度の高さで(二人だけの間に)バンドの時よりスピーカーが大きいことになったって(笑)」「オチつき、くつきりと細部まで際立った明るい音像、中音域の繊細な音のひたたくのまわってしまふこともしばしば。いくつもの印象的なシーンが続いた中盤、インドやアラブの民族を思わせるアレンジ

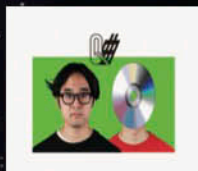


にMOCKの技巧とハワー感か抜群に活きた「In the road」では、ジミー・ヘインスのダットカッド(DADGAD)チューニングについての話やスタッフとの通称が「カシミアール」(ジミー・ヘインズとロバート・プラント)による楽曲だったなんて話が飛び出し、そのMOCKがヴォーカルをとった「Stand By Me」では観客との盛大なシンカロングも、終盤では「裸の王様」(Your Song)と、いった楽曲群に二人のエネルギーが盛り上がり、総立ちとなった場内をMOCKの歌が寛やかに包み込む。そしてクライマックス——「私のお腹に新しい命が宿ったとき、MOCKさんが贈ってくれた曲です」——「歌びと祝福に満ちた「Sally」は想像を超えてみずみずしく美しくかった。「音楽で世の中と繋がることができなくなっちゃった」という二人の出会いから25年、来年迎えるデビュー20周年を前にこの夜彼らが聴かせてくれたのは、音を奏でることの原初的なヴァイブスであった。

〓 TWO OF US 〓
'14年から開催されている、ふたりだけのアコースティックセットによるライブシリーズ「TWO OF US」。今回初めての全国ツアーとして5月よりスタートし、ここ福岡は全20公演中の13本目。ツアーに先駆けて配信リリースされたスタジオアルバム「TWO OF US」は、公式サイトとライブ会場限定にてBlu-rayでも発売されている。



New Album
Q曲
Allright Music
NOW ON SALE



LIVE!
詳しくは BEA WEBサイトをご覧ください。

東郷清丸
「Q曲リリースツアー “超トQ”」
9.27(金) 福岡UTERO
w/村里杏 and more...



東郷清丸

『2兆円』の次は究極の「Q曲」!
作品発表ごとに音楽ファンを話題をかっさるうSSWって?
文:山崎聡美

『17年(60曲入り)『2兆円』』という大胆にして不敵なアルバムをデビュー作としてリリース。早耳のリスナーや多くの個性豊かな同業者から驚きを伴う絶賛を浴びた俊英SSW、東郷清丸、その名もヴィジュアルも非常に衝撃的であるが、単に奇を衒っているわけじゃないことは、オノ・ガクン、沼田曜子、他者や前例に流されず自らのインディペンデント精神に則った活動が証明している。そして今年5月には『究極の9曲』を収録した2ndアルバム「Q曲」を発表。これが期待を上回る大傑作。コミックなイントロダクション『201Q』はオリジナルに発展し、『龍子てんつく』へ、

『L&V』ではメロも展開も歌詞もムードもポップネスが満開。『etcha』とのデュエットで聴かせる『シャウト』では洗練されたメロウネスを、ニュージャズのダイナミズムに満ちる『Naphtas』では昂揚を極める。『レイハリット』に挙げたアソソソ・モーター・オーケストラ・ドライバー・プロジェクトと直接的なファミリイットリを形成するものではない一方で、そこにしかない特有の(ある種)異様な音の轟きを感じるという意味では大いに勝るともいえる。それは時代の潮流だけでなく、オノ・ガクンや細野晴臣といっただけでなく、

東郷清丸(トウゴウキヨマル)

91年横浜生まれ。16歳頃から作曲を始める。童謡からポップス、ロック、ブラックミュージック、ラブなどの音楽のみに留まらず、人の会話や虫の鳴き声や車のエンジンや換気扇の音に耳を至るまで、耳に入るもの全てに感銘を受けながら音楽表現に取り組みスクリプター。17年3月「TOKYO BIG UPI オーディション」最終選考に出場、特別審査員の中原重太郎・松田「CHA BE」高二・MC sirafu 各氏に絶賛され審査員特別賞を獲得。同年9月、自らの勤め先でデザイン/活版印刷をした会社「Allright」内にレーベル「Allright Music」を立ち上げ、11月に1stアルバム『2兆円』をリリース。18年にはフジロック「ROOKIE A GO-GO」に出演、翌年のメインステージ出演をかけた選考の会場投票で1位を獲得。今年5月29日に最新作「Q曲」をリリースした。<http://togokiyomaru.com/>



藤原さくら
Twilight Tour 2019
10.13(日) 沖縄 桜坂セントラル
12.14(土) 熊本Django
12.15(日) FUKUOKA BEAT STATION

天性のスムーキーな歌声は数ある女性シンガーの中でも顔を見ず、聴く人の耳を引き寄せる。今年も多くの夏フェスに出演中の彼女。9月末から12月まで20カ所で開催される全国ツアーは自身初のライヴハウスツアー。今ツアーではバンドメンバーも一新。パンマスはミツメのドラマー須田洋次郎が担当する。至近距離で彼女の音楽を楽しんで。

NONA REEVES
THE FUTURE 2019 <追加公演>
10.19(土)
福岡DRUM Be-1

ソウル、ファンク、80'sポップスなどに影響を受けた独自の音楽スタイルで、確かな支持を集めているNONA REEVES。メジャー・デビュー20周年を超えた今もなおバンドの存在感は増すばかり。今年3月には16枚目となるアルバム『未来』を発売。リリースを受けて開催された5月の福岡公演はソールドアウト。会場もスケールアップして追加公演を開催!

天晴れ! 原宿
あっぱれサマーっ!!夏!!!延長!!!!ツアー2019



10.19(土)
福岡LIVE HOUSE CB

まだ誰も見たことがない新しい「IDOL」。世界中のKAWAIIを取り入れ、独自のカルチャーを生み出していく「原宿」のように「天晴れ!」なKAWAIIカルチャーを創造し、世界に発信していくために結成された7人組。人気・実力ともに今注目されているアイドルグループが9/18にシングル『あっぱれサマーっ!!』をリリース。記念ツアーを東名阪福で開催!

LIVE/
PICK UP!



怒髪天
怒髪天、もっと!もっと!愛されたくて35年。
2019~2020年日本の旅“モノリス=ツツメリス?”
10.26(土) 鹿児島SRホール
10.27(日) 小倉FUSE
1.13(月・祝) 嘉穂劇場

JAPANESE R&E(リズム&演歌)を旗印に活動中!09年、結成25周年を記念して渋谷AXで開催された伝説的ムチャぶりイベントから10年。今年、35周年を迎える怒髪天。4月に公式サイトにて発表された筋入りのオトナによるオトナの為の一大ベクトル企画。怒髪天の一代アンセム「オトナノススメ」を「オトナノススメ~35th 愛されSP~」と新たに銘打ってトリビュート。そろそろ完成なるか!

A応P
4th LIVE TOUR LOOK at ME!!!



12.1(日)
福岡Early Believers

アニメをもっと語りあいたい!アニメの面白さを伝えたい!アニメを「勝手に」応援したい!と始まった、アニメ応援プロジェクト。このなかで「アニメを愛する女の子たちを集めたら何かができるかも?」と結成されたのが、A応P。今回のツアーコンセプトは「CHARACTER」。グループとしての魅力を全面に押し出した今までのツアーとは打って変わって新たな企画に挑戦!A応Pの「CHARACTER」を磨くチャレンジが始まる!



BURNOUT SYNDROMES
TOUR 2019→2020
1.24(金)
FUKUOKA BEAT STATION

大阪発、青春文学ロックバンド。日本語の響き、美しさを大切に文学的な歌詞やヴォーカル、その世界を彩る緻密に計算されたアレンジ。スリーピースの限界に常に挑戦している。今年、最新アルバムを引っ提げて開催した全国ツアーは全会場完売。8月にはシングル『Good Morning World!』をリリース。12月からの自身最大規模となる全国ツアーに向けても精力的に活動中。

九州本土最南端ロックフェス、開催日迫る!

10.5 SAT

- 雨のパレード
- 家入レオ
- 氣志團
- キュウソネコカミ
- KEMURI
- C&K
- 椎名純平
- ZIGGY
- Jazztronik
- SHANK
- SUPER BEAVER
- SOIL&"PIMP"SESSIONS
- 田島貴男 (ORIGINAL LOVE)
- t-Ace
- DJダイノジ
- テスラは泣かない。
- 新羅慎二 (若旦那)
- BAND-MAID
- 04 Limited Sazabys
- 藤巻亮太
- HEY-SMITH
- みゆな
- ももいろクローバーZ
- MONGOL800
- Yogee New Waves
- LOW IQ 01 & THE RHYTHM MAKERS

<WALK INN FES! 推薦 鹿児島アーティスト> Art Building

THE GREAT SATSUMANIAN FESTIVAL 2019

2019.10.5 SAT - 6 SUN

鹿児島県 鹿児島市 桜島多目的広場&溶岩グラウンド

OPEN 7:00 / START 10:00 / CLOSE 20:00 (予定)

10.6 SUN

- 赤い公園
- 宇徳敬子
- THE ORAL CIGARETTES
- ORANGE RANGE
- 川村結花&田中邦和
- 城南海
- きゃりーぱみゅぱみゅ
- GLIM SPANKY
- Crossfaith
- coldrain
- Survive Said The Prophet
- サンボマスター
- 椎名林檎
- SIX LOUNGE
- SHIMA
- SiM
- SPECIAL OTHERS ACOUSTIC
- チャラン・ポ・ランタン
- Dragon Ash
- ハナレグミ
- FLOWER FLOWER
- Base Ball Bear
- 星グランマニエ (from 氣志團)
- マキシマム ザ ホルモン
- ReN

<WALK INN FES! 推薦 鹿児島アーティスト> BACKSKID

for CAMPER

*10/4(金)・5(土)の夜間、キャンプ券をお持ちの方のみご覧いただけます。

- アキラ100% / ありがとうあみ (怪談家) / 細野 (催眠術) / 川辺ヒロシ / コウメ太夫 / DJダイノジ
- ハイナッパルつばさ / マツモトクラブ / 山岸竜之介 / YOSHIROTTEN



チケット 発売中!

f @SATSUMANIAN g .satsumanian @SATSUMANIAN
TOTAL INFO. BEA 092-712-4221
 平日 11:00~18:00 / 第2・第4土曜 11:00~15:00



その他、最新情報はオフィシャルサイトをチェック! >>> www.great-satsumanian.jp

【ビーボイス】 Aimer BEA VOICE 9月号 vol.484 2019年9月1日発行 毎月1日発行 1980年10月7日第三種郵便物認可 発行所 株式会社ビジュアルアーーツ (BEA) 〒810-0022 福岡市中央区薬院2-10-10 tel 092-712-4221 fax 092-715-0463
 Publisher: 北島 匡 Editorial Staff: 栗原直子 三嶋千加子 井上美知子 Art Director: 安田文治 (SUNTAKE Design Atelier) Designer: 衛藤あゆみ Print: 株式会社セネラルグラフィック

09 September 2019 No.484 200 yen

主催 | KKB鹿児島放送 / エフエム鹿児島 企画 | GSH実行委員会ミュージシャン有志 制作 | Zeppライブ / THE FOREST

協賛 |

後援 | 鹿児島市 / 南日本新聞社 / 九州朝日放送 / 長崎文化放送 / 熊本朝日放送 / 大分朝日放送 / テレビ宮崎 / FMリーグ (FM福岡 / FM佐賀 / FM長崎 / FM熊本 / FM大分 / FM宮崎) / スペースシャワーTV 協力 | WALK INN STUDIO / SR Factory / 鹿児島キャリアデザイン専門学校 / GMOペパボ株式会社 / ソニー・ミュージックアーティスツ / タワーレコード / ビクターエンタテインメント / MUSIC ON! TV / イープラス わっせ鹿児島フレンドシップ協定 | 鹿児島ユナイテッドFC 運営協力 | JTB / 鹿児島音協 / BASE CAMP 運営 | BEA